



DAISUI REPORT

第89期株主通信

(2023年4月1日～2024年3月31日)



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第89期(2023年4月1日～2024年3月31日)の株主通信をお届けし、当社グループの事業状況等をご報告申し上げます。

2024年6月

代表取締役社長執行役員 **山橋 英一郎**

▶ 第89期株主通信の発刊にあたり

このたび第89期株主通信をお届けいたします。

第89期の経営成績に加え、当社グループの今後の取り組み方針等について記載しております。ご一読いただき、当社グループへの理解を深めていただけると幸甚です。

▶ 当連結会計年度の経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により経済・社会活動の正常化が進みました。訪日外国人数はコロナ禍前に近づきつつあり、訪日客の旅行消費額も大きく伸びました。また、個人の所得環境に改善が見られ、景気は緩やかに回復に向かいました。しかしながら、名目賃金の上昇を上回る物価高騰の影響で実質賃金は依然として減少傾向にあります。欧州・中東地域の政情不安や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっております。

当水産流通業界におきましては、天然魚の漁獲量の減少

や円安の加速により、魚価は高値圏で推移しております。食品全般の値上げに対する消費者の生活防衛意識の高まりから、家計の消費支出は減少傾向にあり、特に水産物消費への影響も大きくなっております。

このような状況のなか、当連結会計年度の経営成績は、2期連続の増益と上場来最高となる当期純利益を達成することができました。

各セグメントの経営成績は次のとおりであります。

水産物販売事業については、市場営業部門の売上は外食・インバウンド需要の回復傾向が続いており、堅調に推移しました。鮮魚関係では、天然魚は大衆魚中心に水揚げが少なくスルメイカ・カレイ・タラなどは低調に推移しましたが、養殖物を中心にブリ・鮭・エビの売上が増加しました。塩冷関係では、カニが相場下落の影響により取扱数量は増加したものの売上は減少しました。一方でチリメン・シラス等の干魚類は取扱数量が増加し売上は前年を大きく上回りました。

市場外営業部門については、量販店をはじめとした小売

業態等への売上は前年を上回りました。冷凍スリミは販売単価の下落により取扱数量は増加したものの、売上は減少となりました。

損益面については、市場営業部門は販売が堅調に推移し、粗利率の改善に努めたことにより増益となりました。市場外営業部門は一部商品の相場下落もあり減益でした。

その結果、売上高は前年並みとなりましたが、セグメント利益は前期を上回ることができました。

冷蔵倉庫等事業は、保管料及び荷役作業収入の改善に取り組んだことで、売上高・セグメント利益とも前期を上回ることができました。

▶ 変化する事業環境への対応

新型コロナウイルス感染症の終息により、社会や経済活動に明るい兆しが見え始めました。一方で水産業界を取り巻く環境は、地球温暖化に伴う海洋環境の変化により、産地や水揚時期に影響を与えています。食品全般にわたる度重なる値上げは、消費マインドの低下を招いています。また、今年度から始まった物流2024年問題は、輸送時間に与える影響やコスト増が懸念されます。

こうした状況下、当社グループでは、様々な環境の変化を予測し、スピードをもって対処することで、従前以上に企業体質の改善に努めてまいります。

▶ 中期経営計画1年目のご報告

当社グループは、中期経営計画(2023年度-2025年度)を策定し、2030年度のあるべき姿『活き活きと水産物の価値をお客様に提供し続ける企業』を実現するための4つのポイントと達成すべき数値目標を掲げております。

(4つのポイント)

1. 関西で確固たる基盤を有し世界の水産市場をターゲットに販売していく
2. 収益力を高めて、質の向上を図る
3. より挑戦的・主体的に取り組む組織風土のもと、より働き甲斐のある企業を目指す
4. ステークホルダーから信頼される企業を目指す

(数値目標 (2025年度連結))

売上高	1,040億円
営業利益	690百万円
経常利益	790百万円

2023年度は、営業利益、経常利益については、2025年度の目標を上回ることができました。引き続き4つのポイントを推進し、数値目標の連続達成に向けて取り組んでまいります。

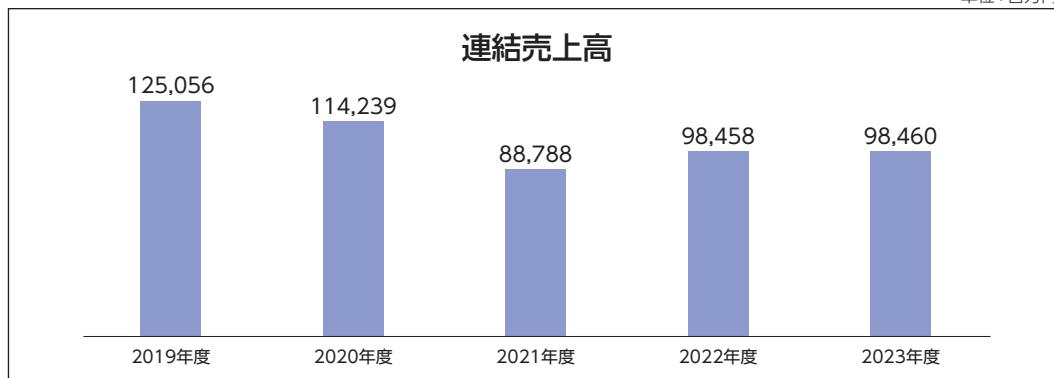
▶ 配当について

当社は、2024年4月7日に創立85周年を迎えました。2023年度期末配当において、株主の皆様への感謝の意を表すため、1株当たり1円の記念配当を実施し、普通配当5円と合わせ計6円としました。

配当政策に関する基本方針は、将来に向けた安定的な収益基盤づくりのために内部留保の充実を図りつつ、株主の皆様へ安定した配当を継続的に行うこととしております。

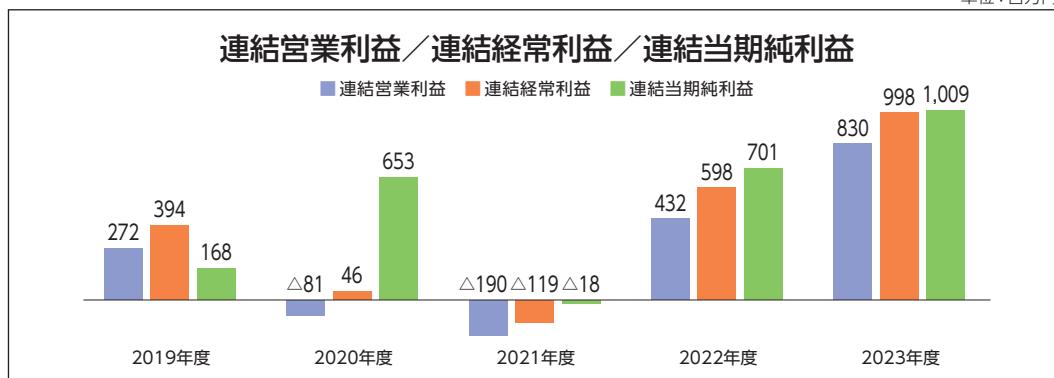
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

単位：百万円

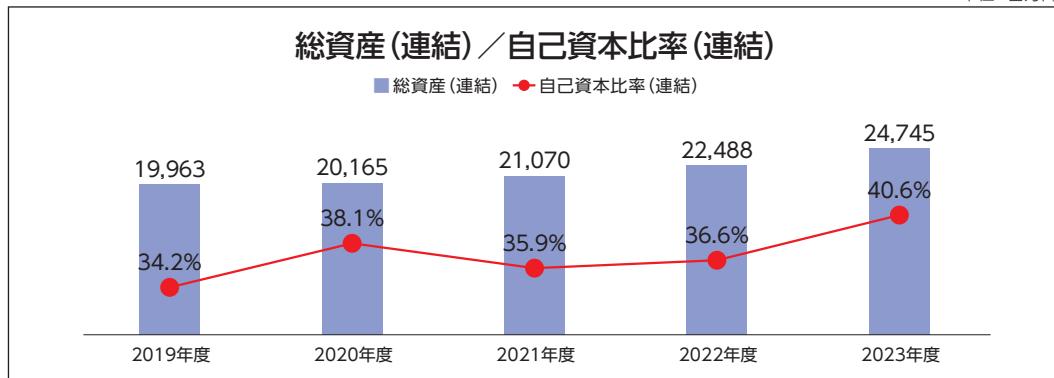


※2021年度以降の売上高は、「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。

単位：百万円



単位：百万円



連結財務諸表(要約)

▶ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期末 (2023年3月31日現在)	当期末 (2024年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	17,115	18,372
固定資産	5,373	6,372
有形・無形固定資産	2,740	2,695
投資その他の資産	2,633	3,676
資産合計	22,488	24,745
負債の部		
流動負債	10,503	11,437
固定負債	3,751	3,265
負債合計	14,255	14,702
純資産の部		
株主資本	7,050	8,015
その他の包括利益累計額	1,182	2,027
純資産合計	8,232	10,042
負債・純資産合計	22,488	24,745

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

▶ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (2022年4月 1日から 2023年3月31日まで)	当期 (2023年4月 1日から 2024年3月31日まで)
売上高	98,458	98,460
売上原価	91,692	91,782
売上総利益	6,766	6,678
販売費及び一般管理費	6,333	5,848
営業利益	432	830
営業外収益	359	342
営業外費用	193	173
経常利益	598	998
特別利益	1	45
特別損失	11	—
税金等調整前当期純利益	588	1,044
法人税、住民税及び事業税	46	45
法人税等調整額	△160	△10
親会社株主に帰属する当期純利益	701	1,009

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期 (2022年4月 1日から 2023年3月31日まで)	当期 (2023年4月 1日から 2024年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△349	2,651
投資活動によるキャッシュ・フロー	123	227
財務活動によるキャッシュ・フロー	841	△1,272
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	623	1,633
現金及び現金同等物の期首残高	2,083	2,706
現金及び現金同等物の期末残高	2,706	4,339

環境・社会への取り組み

当社グループは、水産物流通の担い手として、人々の健康と幸福に貢献するという経営理念のもと、魚食普及活動に取り組んでおります。「旬」の水産物をもっと身近に感じ手軽に食べていただく取り組みをご紹介します。

●当社オリジナルのレシピサイト「お魚ポータル」の開設

2023年4月に魚介類を使って様々な料理が作れるレシピサイト「お魚ポータル」を開設いたしました。多くの方にご活用いただけるよう、季節や料理のジャンルに応じたレシピを多数掲載しております。サイトを通じ魚についての理解が深まり、一人でも多くの方が、日々の生活の中で魚を扱う機会が増えれば幸いです。

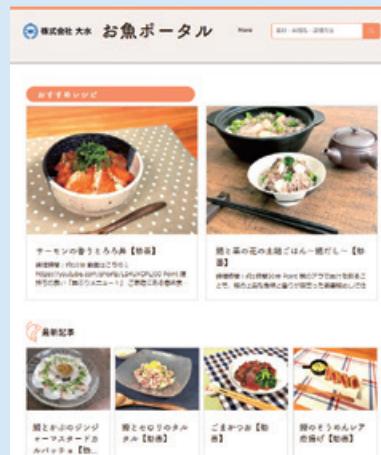
また、三井住友信託銀行株式会社が発行する小冊子「SuMi TRUST With You」に、当社の考案した「魚を余すことなく堪能できるレシピ」が2回にわたり掲載されました。これは同社に「お魚ポータル」の取り組みを評価いただき、実現したものです。

引き続き、魚食普及並びに食文化の発展のため、様々な活動に取り組んでまいります。

魚は私たちの生命の維持に欠くことができないタンパク質の重要な摂取源です。水産物は元来持続可能な資源であり、我が国では適切に水産資源を管理していること等から、魚を選択して食べることは持続可能な消費行動につながります。今後も「大水グループは自然の恵みに感謝し、古（いにしえ）からの食文化を守り、新たな食の創造に挑戦していきます」という企業理念のもと、サステナビリティを意識した企業経営に努めてまいります。



お魚ポータルはこちら



※赤枠内に当社レシピが掲載



SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連サミットで採択された2030年までに達成を目指す国際目標のことです。飢餓、環境破壊などの課題について、17の目標と169のターゲットから構成されています。

会社情報・株式情報

▶ 会社概要

(2024年3月31日現在)

会社名	株式会社 大水 (DAISUI CO.,LTD.)
事業内容	生鮮、冷凍、加工水産物の卸売事業
設立	1939年4月7日
資本金	1億円
従業員	連結424名 単体318名
事業所	本社・大阪本場支社、東部支社、 北部支社、京都支社、神戸支社、 神戸東部支社

▶ 取締役及び監査役

(2024年6月21日現在)

代表取締役社長執行役員	山橋英一郎
取締役常務執行役員	湯上信元
取締役常務執行役員	児島實
取締役上席執行役員	金岡正倍
取締役執行役員	西山康成
取締役(社外取締役)	松葉知幸
取締役(社外取締役)	三谷拓己
常勤監査役(社外監査役)	齋藤守
監査役(社外監査役)	百々季仁
監査役(社外監査役)	田中豊

▶ 株式の状況

(2024年3月31日現在)

発行可能株式総数	47,800,000株
発行済株式の総数	13,774,819株
株主数	3,688名
単元株式数	100株

▶ 大株主の状況

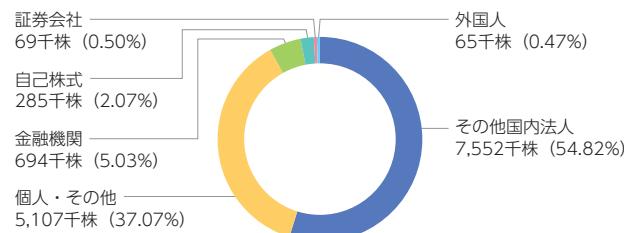
(2024年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社 ニッスイ	4,303	31.90
株式会社 極洋	1,180	8.75
農林中央金庫	694	5.14
大水従業員持株会	518	3.84
二チモウ株式会社	450	3.33
中部水産株式会社	259	1.91
寶船冷蔵株式会社	225	1.67
利州株式会社	215	1.59
大起産業株式会社	196	1.45
水野直明	160	1.18

- (注) 1. 当社は、自己株式を上位10位以内に該当する285,154株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
3. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

▶ 所有者別株式分布状況

(2024年3月31日現在)



- (注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。

▶株主メモ

上 場 市 場	東京証券取引所スタンダード市場 (証券コード7538)	
事 業 年 度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
基 準 日	定時株主総会	毎年3月31日
	期末配当	毎年3月31日
	中間配当※実施する場合	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
電 話 照 会 先	0120-782-031 (フリーダイヤル)	
公 告 方 法	電子公告 (https://www.pronexus.co.jp/koukou/7538/7538.html) やむを得ない事由により、電子公告による公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。	

▶株式に関するお問い合わせ先

内 容	お問い合わせ先
単元未満株式の買増、 買取のご請求	株主様の口座のある証券会社 * 口座をお持ちでない株主様（特別 口座の株主様）は下記の三井住友 信託銀行株式会社にお問い合わせ ください。
届出住所のご変更	
郵便物の発送に関する ご照会	三井住友信託銀行株式会社 0120-782-031
株式に関するその他の お問い合わせ	※受付時間は9時～17時 (土・日・祝日及び12/31～1/3を除く)

▶単元未満株式の買増、買取請求のお手続きについて

当社の株式は1単元が100株となっており、単元未満株式については市場で売買できませんが、当社に対して100株となるように買増請求(購入)することができます。また単元未満株式を当社に対して買取請求(売却)することもできます。お手続きの方法等のお問い合わせは、上記お問い合わせ先にお申し出ください。

▶株式等に関するマイナンバーお届出のお願い

株式等に関する税務関係のお手続きに関して、マイナンバーのお届出が必要です。お届出が済んでいない株主様におかれましては、口座をお持ちの証券会社へマイナンバーのお届出をお願いします。

表紙のご紹介

1段目：クルマエビ 2段目：ホテルイカ
3段目：キンメダイ 4段目左：サワラ 4段目右：カキ



〒553-8550

大阪市福島区野田一丁目1番86号 大阪市中央卸売市場内

代表電話：06-6469-3000 URL：<https://www.daisui.co.jp>

